

榊原病院

Monthly

Vol.67

2024 January

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

略歴

1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局
2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員
2004年 九州大学病院精神科神経科助教
2008年 九州大学病院精神科神経科講師
2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授
2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授
2023年 国立病院機構榊原病院特命副院長を経て、院長就任



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

これからの精神医学

院長 鬼塚 俊明

新年を迎えるにあたり、これからの精神医学の方向性について述べたいと思います。現代はエビデンスに基づく医療がますます求められ、治療ガイドラインを熟知した上での精神科治療が期待される時代です。また、客観的で科学的な診断方法の確立も急務とされています。

一方、私たちの研究グループはこれまでの数千例に及ぶ患者さんの頭部MRIデータを分析し、新たな疾患概念(バイオタイプ)を提唱することを考えています。これは精神医学において革新的な進展をもたらす可能性があり、精神疾患の病態を解明する一翼を担うものと期待しています。

更に、新たな治療法の開発も必要です。現在、精神疾患の主な生物学的治療は薬物療法ですが、精神医学の新たな治療アプローチとして、ニューロフィードバックがあります。ニューロフィードバックとは、脳の活動をリアルタイムで測定し、その情報をフィードバックとして個体に提供するトレーニング手法です。これは主に脳波や機能的MRIでの神経活動のパターンをモニタリングし、個人が自分の脳活動を視覚化したりすることによって、脳活動の調整や学習を促進することを目的としています。この手法は、注意力の向上、ストレスの軽減、認知機能の向上、睡眠の改善など、さまざまな目的で使用されます。最近ではPTSD治療にニューロフィードバックが有効であるという研究報告があり、私は記事の中で注目すべき研究として取り上げています(Onitsuka T, Advancing PTSD treatment: a novel approach in treatment-resistant childhood sexual abuse PTSD. Psychiatry Clin Neurosci, 2024)。

このような時代の中、新たな年は職員の皆さんと共に榊原病院を飛躍させる年にしたいと考えています。私たちは新しい知見を取り入れ、患者さんのためにより効果的な治療を提供することに注力します。また、精神医学の進歩に寄与し、患者さんの健康と幸福に貢献することを新年に向けての誓いしたいと思います。

トピックス

行事・
出来ごと

● 市民公開講座のお知らせ

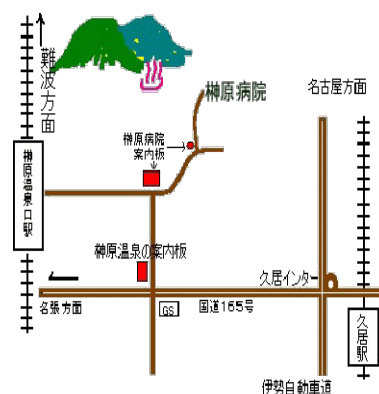
『誰でも楽しめる「ボッチャ」を体験!』をテーマとして、公開講座を開催します。
令和6年1月20日(土)9時30分より榊原第2区集会所で開催しますので、お気軽にご参加下さい。
参加無料・事前予約は不要です。

診療科

一般精神科
アルコール・薬物依存症
専門外来
こころのリスク外来

病床数 175床

精神科病棟 157床
医療観察法 18床
強度行動障害ユニット



電車・バス/近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き)約30分

自動車/久居インターより約20分

マイクロバス/久居駅より直通バス(約25分)



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和5年12月までに全症例は145例となりました。新規導入は12月は0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

あけましておめでとございます。本年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

デイケアは本年も変わらず、南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。皆さまそれぞれの目標に合わせて、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したり、リフレッシュしたりと、それぞれの活動に取り組んでおられます。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。10代から80代まで、幅広い年代の方々と一緒に過ごしておられます。

1月の初回は射山神社まで初詣に行く計画です。また、「なつかしい遊び」と題して、駒回しや百人一首を行います。運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーション、SST、カラオケ、アート等様々なプログラムがあり、それぞれの方のニーズに合わせて活動いただいています。

病院のホームページや、外来に月間プログラムがありますので、どうぞご覧ください。



天気の良い日に散歩に行きました。



調理の時間にタコライスを作りました。メンバーからのリクエストです。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム

間食の摂り方について

間食とは、朝昼夕の食事以外に食べる物や飲み物を指します。本来の役割は食事だけでは足りない栄養を補うことですが、気分をリフレッシュさせ、生活に潤いを与える効果があります。しかし、食べすぎはエネルギーや脂質の過剰摂取となるため注意が必要です。一般的に食事制限のない大人の方は1日200kcal程度が目安になります。食品のパッケージに表示されている成分表を見る習慣を付け、カロリーの把握ができると良いですね。特に洋菓子やスナック菓子は個数や量に気を付けましょう。また『間食＝お菓子』だけではなく、自身の不足している栄養素を補う役割もあります。現代人に不足しがちな食物繊維やカルシウムを補うためにフルーツや乳製品などを取り入れるのも良いですね。かしこく、楽しく間食を摂って頂けたらと思います。